

バグダッド日誌（6月17日）

○イラク陸軍司令部、NATOオフィスのあるビルディング・ゼロ

パレス（多国籍軍司令部）のメイン・ゲートと駐車場を挟んだ正面に、イラク陸軍最高司令部とNATO事務所が所在するビルディング・ゼロがある。（ちなみにコアリション・オペレーション事務所はビルディング35）

我々が到着した当初の2006年1月頃までは、気軽にこの建物内に入り、イラク陸軍司令部の様子を見ることができた。（イラクの高級幹部がゆったりと勤務しているというイメージであった。）

ところが2月の終わり頃からセキュリティが厳しくなり、物見遊山でこのオフィスには入ることはできなくなった。先日、 が興味本位で中に入った瞬間に米軍勤務者数名に囲まれてしまい、どこに行きたいのか確認され、そのまま体よく追い出されてしまった。

昨日、親しくしていたルーマニアLOのフェアウエル・パーティーがあり、NATOのフェアウエルと合同で実施するという事で、このビルディング・ゼロでパーティーが開かれた。ビルディング・ゼロに入った瞬間に米軍中佐が「May I help you?」とすかさず近寄ってきた。ルーマニアLOのフェアウエルに来たことを伝え、丁寧だが有無を言わさぬ態度で中庭に案内された。中庭は外からは完全に隔離されており、木製のベンチや日よけのシートがあってとても雰囲気は良かったが、結局建物内は廊下しか確認できなかった。

ルーマニアLOは、NATOとコアリションの両方で勤務している。6ヶ月の勤務期間を終了し本国に帰ることとなった。任務完遂を祝福し、無事の帰国を祈念した。コアリションの仲間達と勤務間の思い出話に花を咲かせていたが、少しだけ違和感を感じた。どうもこの違和感は、すでにNATOの一員となっている国とNATOに加入するための実績作りのためにイラク・オペレーションに参加している国の間にあるような感じがした。またNATO加入を目指す国々はビルディング・ゼロに是非とも勤務したいと見ているようであった。NATOは現在ハンガリーの陸軍大佐がチーフとしてルーマニア、チェコ等の国が勤務している。勿論米軍のスタッフが目付役でサポートしている。

ところで、フェアウエルに も連れて行っただが、彼の好奇心はこの中庭では満足できず、トイレのついでにイラク陸軍司令部を覗いたため米軍スタッフに注意されてしまった。 の好奇心は留まることを知らない。